

一般社団法人朝霞地区薬剤師会

# あさやくだより

第3号  
2018

(一社)朝霞地区薬剤師会

発行人: 広報委員長 細川 玄機

〒351-0021朝霞市西弁財1-10-21-312号

TEL:048-483-4125 FAX:048-483-4126

asaka-ph@asakaph.or.jp

## 新年度に向けて 会長挨拶



若葉の緑も鮮やかな季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、4月からの調剤報酬改定も概ね全容が見えてきました。基準調剤加算が廃止され、より明確に地域を意識した「地域支援体制加算」に形が変わりました。是非多くの薬局に届けていただくことを願います。将来的な薬局ビジョンは、セルフメディケーションとしてのOTC販売、処方せん調剤、在宅医療ですが、軸足を保険調剤にしている薬局が多いことも事実。ビジョンの達成にはまだまだ時間がかかります。保険調剤上の加算は、正しく算定することで薬剤師業務を明確にし、そこに報酬を与えるという役割があります。算定しなければ、薬剤師自らがその業務を否定することにもなりかねません。いくつかのハードルはあると思いますが、可能な限り算定に向けて業務を見直すことも必要です。薬剤師会では、ポリファーマシー対策事業、吸入指導薬剤師育成など、現場にも役立つ事業に今年も力を注ぎたいと思います。

今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

(会長 畑中 典子・かくの木)

## 新年会開催 1月26日



新座市のベルセゾンにて開催された新年会には、ご来賓、会員の皆様、合わせて65名の方がご参加くださいました。

畑中会長の開会の挨拶の後、穂坂泰衆衆議院議員、並木武洋新座市長、鯉淵肇埼玉県薬剤師会会長、村山正昭地区医師会会長のご挨拶、松永仁理事の乾杯の発声と続き、盛会の中、小田美良監事の旭日双光章叙勲のお祝いとして、花束・記念品の贈呈がありました。最後に日本フルーツ協会会長佐々木真さん、由利陽子さんのコンサートが素敵な時間を紡ぎました。

(朝霞支部長 渡邊 美知子)

新年会の様子はこちらで!



## ポリファーマシー対策事業進捗状況

昨年7月、東京大学大学院教授の今井博久先生との出会いから始まった当地区のポリファーマシー対策事業について、進捗状況を以下の表でお示します。

多剤処方(ポリファーマシー)対策は、最近特に注目を浴びており、超高齢社会を迎え高齢者にとってよりよい薬物療法を提供するために、薬局薬剤師の職能を生かし、多職種連携のもとに取り組むべき事業です。

そのための情報収集の方法のひとつとして、レセプト情報

などのデータベースを用いた調査も提案されておりますが、今回の事業は国保データを使用した点で、国内初の試みです。

現時点では、保険者である行政・医師会・薬剤師会の協働事業として、来年度以降も継続可能なノウハウの構築を中心に取り組んでいます。今後は、事業の範囲を四市に広げ、かかりつけ薬局機能を生かした薬剤師業務の中心となるよう自己研鑽に励み、地域薬剤師のスキルアップに取り組んでいきます。

(和光支部長 清水 勝子・新倉健康薬局)

H29年7月	スタート、事前準備	関係機関との話し合い、その他必要な書式を作成、医師会、薬剤師会中心に検討会を開き、事前の通知を行う
H29年10月	覚書締結	新座市、朝霞地区医師会、朝霞地区薬剤師会、東京大学大学院今井博久教授
H29年11月～ H30年1月	一次スクリーニング	連結可能匿名化のうえで、アルゴリズムデータを用いて抽出作業 いくつかの疾病について除外。
H30年1月	二次スクリーニング	69例の抽出データの処方詳細を検討し、45例を抽出(18日)
H30年2月	患者の同意	最終的に32名の方に新座市から通知を出し、同意を取る
H30年2月	対象事例の情報を薬剤師会に提示 (個人情報是非公開)	第1回事前説明会(14日) 対象薬局17件出席(21件中)
H30年2月	患者情報の開示(新座市)	第2回事前説明会(9日) 同意を得た患者情報を担当薬局に提示
H30年3月～	薬剤師による面談	薬局から患者に連絡、面談し情報収集
H30年3月～	薬局から医師に報告と情報提供	関係する全医療機関に面談シートと情報提供書を送付
H30年3月～	患者の次回受診時	医師による処方再確認
H30年3月～	アンケート調査	医師、薬剤師、患者にアンケート発送、まとめ
H30年6月	レセプトで影響調査	対象者のレセプトから影響を定量化

**学術研修会・吸入指導研究会 第2回 12月18日・第3回 3月5日 次回は5月の予定！**

昨年12月、青木康弘先生（深谷市・プラーナクリニック）、大竹真史先生（深谷中央薬局日赤前店）をお招きし、第2回吸入療法指導研究会を開催いたしました。

青木先生からは吸入支援の重要性、さらに吸入支援を繰り返すことでデバイスの操作エラーが減り、治療効果が上がるという事例をみせていただきました。

大竹先生によるグループワークでは、今回のデバイス「フルティフォーム」のデモ機を用い、業務で遭遇する3つの症例を想定したロールプレイを行いました。

この研修を通して吸入療法における薬剤師が果たす重要な働きを再認識しました。（上妻 加奈・かくの木薬局）

第3回研究会では、寺本信嗣先生（和光駅前クリニック内科）より、COPD病態と治療方針についてお話を伺いました。現在 社会的にも問題になっているCOPDの主たる治療薬は、吸入剤。「スピリーバレスピマット」の使い方をしっかりと学ぶことで、薬剤師のデバイス指導によって薬の効果に大きな差が出ることを理解することができました。

この研究会は、熊谷薬剤師会が立ち上げた埼玉吸入療法ネットワークを参考に、昨年より開催しています。医師の講義にグループワークを組み入れ、患者役・薬剤師役・コメンテーター役と3人一組で取り組むロールプレイでは、陥りやすいピットホールも盛り込まれ、明日からの服薬指導にとても役立つと思いました。（大倉 裕子・あさか台薬局）

学術委員会では、呼吸器疾患の治療に関して、薬剤師が医師の期待に応える働きができるよう、「吸入マイスター」の資格取得を目指す研修会を、今年度も引き続き開催してまいります。皆様、ぜひご参加ください。



**保険制度研修会 12月20日**

今回の研修会では、エルメッドエーザイ株式会社遠藤信彦氏をお招きし、「2018年度診療報酬改定」についてお話いただきました。平成30年度医療・介護の同時改定を受け、対物業務から対人業務へ転換することで、患者に寄り添う薬剤師が求められる改定になっています。特にかかりつけ薬剤師を持つことで、薬の管理や健康などについていつでも相談できる薬剤師が求められるようになります。すなわち「患者のための薬局ビジョン」とは、「門前」から「かかりつけ」そして「地域」へと目を向け、昔ながらの薬局と先進薬局が融合し、利用者のニーズに応えられる薬局になることだと感じました。



（理事 大八木 実・フレンド薬局）

**地域連携研修会 2月20日**

「地域包括ケアシステムと薬局の役割」と題して、畑中会長より、大変分かりやすいお話を伺うことができました。

H24～26年に、薬剤師向けに介護塾を開催したことで、朝霞地区薬局の在宅活動の広がりの一助になったこと、地域包括ケアシステムの中で薬剤師が活躍するために、薬剤師機能を明確にし、アピールすることで、多職種との連携が進むことを学びました。ハードルが高いと感じていた健康サポート薬局を目指す力が湧いてくるお話でした。

その後は、地域包括ケアシステムの実現のために重要な位置づけである「地域ケア会議」について学びました。他職種の専門職を招いての「模擬地域ケア会議」を参観することで、薬剤師の専門性を生かした関わり方が具体的に分かり、とてもよい勉強になりました。

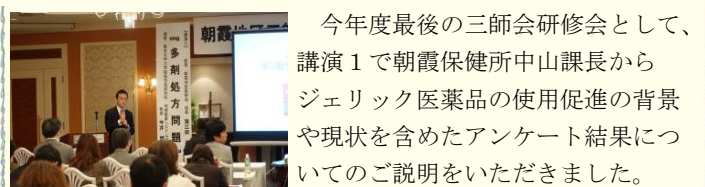
（理事 村越 達子・アカネサポート薬局）

**松川厚子理事 学校薬剤師表彰受賞**

平成30年3月4日（日）ウエスタ川越において、当会の学校薬剤師委員長である松川厚子理事が、平成29年度学校薬剤師功労者表彰を受賞されました。松川理事は、長年にわたり和光市の学校薬剤師として児童・生徒の安全確保のために学校環境衛生や薬物乱用防止教室など活躍なさっています。表彰式に参加して感じたのは、学校薬剤師の担い手が少ないこと。学校薬剤師には薬剤師の得意分野である衛生・保健などリーダーシップを取りながら学校環境を整える大切な役割があり、ぜひ、多くの方に学校薬剤師を担っていただくことを期待します。（理事 大八木 実・フレンド薬局）



**ポリファーマシー研修会 3月16日**



今年度最後の三師会研修会として、講演1で朝霞保健所中山課長からジェリック医薬品の使用促進の背景や現状を含めたアンケート結果についてのご説明をいただきました。

講演2では、東京大学大学院教授の今井先生から、超高齢社会に突入しつつある今こそ真剣に取り組んでいかなければならない多剤併用処方への地域からのアプローチについて、最新の情報をユーモアを交えて話していただきました。

お話を伺っていくうちに29年度の当地区のパイロットスタディはまさに的を得た取り組みであると思いました。

その後の懇親会では、医師会・歯科医師会の先生方をはじめたくさんの薬局薬剤師や病院薬剤師が今後の連携について遅くまで話に花を咲かせました。

（和光支部長 清水 勝子・新倉健康薬局）



## 在宅医療支援薬局リスト発行(地域連携委員会)

在宅医療支援薬局リストが完成しました！  
患者さんの思いを医師へ、医師の思いを患者さんへ、橋渡しするために作った薬局リストです。

「薬剤師が在宅訪問するメリット」「薬剤師の在宅訪問に至る流れ」「朝霞市、志木市、新座市、和光市、地域毎に在宅訪問できる薬局のリスト」「薬局毎に医療用麻薬、輸液、特定保険医療材料の取り扱い機能情報」「院外処方できる注射薬および特定保険医療材料

が確認できるQRコード」を掲載してあります。  
朝霞地区の医師会、歯科医師会、薬剤師会そして包括支援センター、介護事業所へ随時お送り致しますので、お薬の管理でお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご活用ください。

(理事 松本 裕司・コスモファーマシー)

在宅医療支援情報はこちらで！



## かかりつけ薬局コミュニティネットワーク

埼玉県薬剤師会のホームページ(会員向けページ)に「かかりつけ薬局コミュニティネットワーク」が開設された事をご存知でしたか。かかりつけ薬局の薬剤師が(特に在宅業務に関して)疑義を生じた場合、どう対応すべきかを照会するサイトです。



会員ページの右側のボタン(左図)をクリックして入ったところ、アクセス数はまだ350件でした。利用者が少ない印象でしたのでご紹介します。

現在Q&A形式で80事例ほどが記載され、「ワード検索」が可能です。or とandの条件設定もできました。また、質問を入力すると社会保険委員会あるいは薬事情報センターが、概ね3日以内に回答してくれます。業務中に困った事例を入力すると比較的短時間で回答が得られること、

「ワード検索」が可能なことから、薬剤師が利用しやすい情報共有のツールだと思いました。毎年1回、県薬雑誌に同封されて届く小冊子「情報センターで受け付けた主な問い合わせについて」とともに利用しようと思います。

(理事 喜納 美枝・かくの木)

## 志木市民公開講座 2月17日

2月17日(土)志木市民会館において、志木市民公開講座「健康寿命のばしマッスル講座」が開かれました。市民参加者は80名、「地域の在宅医療」として朝霞中央クリニック米田武史先生、「地域の在宅医療・かかりつけ薬局」のテーマで朝霞地区薬剤師会大八木実が講演しました。

市民の多くから、薬剤師の活動やかかりつけ薬局・薬剤師が分からないという声があがりました。かかりつけ薬局・薬剤師を持つことで継続的に薬の一元管理ができ、安全安心につながることで、その他、一般用薬品や健康相談、在宅支援など、薬局をもっと気楽に使っていただきたいとお願いました。



最後に市民からもっと薬剤師は医療の面で前に出てきて欲しいと言われ、これは薬剤師に期待しているとの励ましのお言葉と感じました。

(理事 大八木 実・フレンド薬局)

## 今回の調剤報酬改定について

今回も、前回と同様に大手調剤チェーンを集中的に叩くような改定になりました。長い目でみると体力のある大手調剤チェーンをさらに鍛え上げ、中小薬局の体力を徐々に奪っていくことになりそうです。厚生労働省の「患者のための薬局ビジョン」では地域包括ケアシステムが完成する2025年までに「全ての薬局がかかりつけ薬局になる」ことを目指していますが、それまでに4回の改定を経て、「大手調剤チェーンに薬局を集約しつつ、かかりつけ薬局化できず採算の取れない薬局を廃止していく」という形で「かかりつけ化」が完成するというシナリオになる可能性があります。今回の改定で「自分の薬局は損をした/得をした」「大手チェーンにもっと厳しくしたほうがいい」といった短期的な見方は捨てて、「患者、あるいは処方箋を持たない薬局利用者に対して薬局が提供すべき本質的な価値とはどのようなものなのか」を考えることが必要です。

(志木支部長 田代 健・地球堂薬局)

## 朝霞市市民講座 3月10日

3月10日(土)朝霞産業文化センターにおいて、「みんな安心!たとえ介護が必要になっても在宅医療があなたを支えます!」をテーマに、医師会から町田穰先生(まちだ訪問クリニック)、歯科医師会から出浦恵子先生(でうら歯科医院)、薬剤師会から大八木実が講演しました。

市民参加者は80名、かかりつけ薬局・薬剤師のメリット、お薬手帳が医療だけでなくデイサービスやリハビリなど介護の時でも大いに役立つこと、残薬や認知など在宅医療のきっかけ事例を混ぜながらお話をさせていただきました。講演終了後に市民から「薬がどんどん増えていくのは大丈夫なんでしょうか?」と尋ねられました。まさにポリファーマシーになるきっかけになる話でした。

やはり薬の関心度は高い。

医師に聞けない分、薬剤師に頼ることは日常でも多くあります。薬剤師はきちんとした対応が必要だと感じました。

(理事 大八木 実・フレンド薬局)



おすすめの本

日本の夜の公共圏:スナック研究序説

谷口 功一・スナック研究会 著(白水社)

薬局は現在58000軒存在し「コンビニよりも多い」と言われますが、スナックは10万軒近くあります。相違点も多いですが、ともに行政の規制に縛られている点や、商品の個性ではなく接遇でリピート客の獲得を目指す点など、共通するポイントも多く、薬局サービスを考える上で参考になると思います。「かかりつけ」を新鮮な視点から考えたい方におすすめです。

(志木支部長 田代 健・地球堂薬局)



薬剤師・管理栄養士のための 今日からはじめる薬局栄養指導

(日経メディカル開発 編)

「塩分摂取制限のある患者に減塩指導だけで大丈夫?」

薬剤師はその人が飲んでいる薬やサプリメントに含まれるNa量にも気を付ける必要がある。など、本書は薬剤師と管理栄養士、両者の視点で栄養・食事指導のポイントが疾患別でまとめられています。患者の疾患と生活状況に合ったアドバイスが求められている私達薬剤師にとって頼もしいツールです。

(理事 織田 朋久・あおぞら薬局)



平成30年度 総会・懇親会のご案内

平成30年度定時社員総会を下記の日程で開催いたします。お忙しいとは存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加くださいますようご案内いたします。

日時： 平成30年5月31日(木) 19時30分～20時30分  
会場： シティイン北朝霞

総会后、懇親会も予定しております。正式なご案内は、4月末に発送予定です。



県薬代議員選挙結果報告

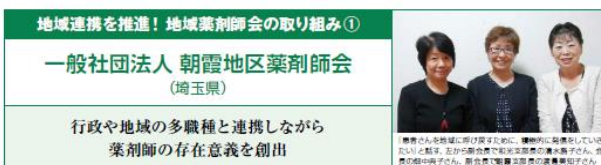
昨年12月、県薬代議員選挙について告示があり、2月に改選が行われました。代議員総定数は72名、定員3名の朝霞地区からは、清水勝子理事、須田友子理事、大八木実理事が立候補し、3月12日全員の当選が確定しました。任期は平成30年4月1日から2年間となります。皆様、よろしくお願いたします。



冊子に掲載されました!

アルフレッサ発行の冊子「Fresh Leaf」2018特別号に、当会が取り上げられました。「地域連携を推進!地域薬剤師会の取り組み①、行政や地域の多職種と連携しながら薬剤師の存在意義を創出」という見出しで、3ページにわたって朝霞地区薬剤師会の活動を紹介しています。

記事全文はHPでお読みください!



俳句を楽しむ

(朝霞支部長 渡邊 美知子)

夕暮の  
残花つやめく  
雨あがり

夏隣  
制服まぶし  
女学生

古き物  
一気に脱がむ  
竹の秋

春の季語：竹の秋、夏隣、残花

「皆様からの投稿もお待ちしております。」

編集後記

桜の花も咲きそろい、心地良い季節となりました。調剤報酬、介護報酬同時改定で皆さまお忙しいこととお察しいたします。少し前になりますが、『薬剤師倫理規定』の見直し検討が行われ、新たに1月17日に『薬剤師行動規範』として制定されました。その中で、『職能の基準の継続的な実践と向上』という項が新たに追加され、「薬剤師は、薬剤師が果たすべき業務の職能基準を科学的原則や社会制度に基づいて定め、実践、管理、教育及び研究等を通じてその向上を図る」とされています。

何となく頑張ろうと思えました。

(広報委員長 細川 玄機・三原薬局)



(一社) 朝霞地区薬剤師会  
〒351-0021

朝霞市西弁財1-10-21-312号  
TEL : 048-483-4125  
FAX : 048-483-4126

E-mail  
asaka-ph@asakaph.or.jp

